

大川原

ライフ

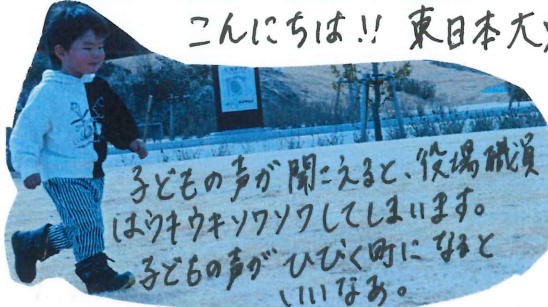
LIFE[®]

2021年4月

大川原とは…大川原は福島県大熊町にある地区です。町は、2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故により全町避難を余儀なくされましたが、2019年4月にこの大川原地区と中屋敷地区に限り避難指示が解除されました。大川原地区には新しく役場庁舎や公営住宅などができ、住人が日々の暮らしを再開しています。

発行：大熊町ふるさと未来会議 問合せ先：mirai@town.okuma.fukushima.jp

こんにちは!! 東日本大震災から10年が経ちました。大熊町でも3月11日は町民の



方々による折り鶴やランタンの展示、花火などで、あの日からの歩みとこれからの思いを寄せる1日となりました。震災から11年目の大川原は下の写真のとおり。まちづくりはこれからが本番です。



3.11、屋内ハツ子さんは「会津の空から祈る」と、折り鶴に記しました。「田んぼなどでも除染がすすみ、だれもが安心して住もうと思える大熊になったらいいなあ」

大川原の仮設店舗で「鈴木商店」を営業する鈴木真理さん。新設される商業施設でまもなくお店を改めてオープンします。「買いものを楽しめるような、心の余裕に7ながるようなお店にしたい。新しい始まりが今はすごく楽しみです!」



まちはこれから、大野の方へと広がっていきます。うまくいくことばかりじゃないかもしれないけど、楽しんで進みたい。11年目の大熊も応援してくださいね。

大野へ

11年目の大川原!!

商業施設は4月にオープン!!
アールキ〜

グループホームと
診療所

交流施設も
建設中

宿泊・
温泉施設
建設中!

※撮影日は2月下旬です。

教えて! みんなの 10年前

震災から10年。節目の年ということもあり、震災特集の番組も数多く流れましたね。今回、大川原LIFE編集メンバーに当時なにをしていたのか、これからのための思いを聞いてみました!



佐藤(和)

高校生最後の3月を過ごしていました。実家にいる時に被災しましたが、そんな最中、無事大学に入学できるよう動いてくれた家族、知人には、今でも本当に感謝しています。最近、大学時代の友人も町を見に来てくれて、「がんばれよ!」と応援してくれます。帰町から日は浅いですが、町に住む人、町を訪れる人みなさんの心に明かりを灯せる元気な町にしていきたいです!

10年前は東京で別の仕事をしていました。身じずかしながら、福島でも自分の生活でいつかいい思い出だった日々、まさか10年後に大熊町職員になっているとは思っていませんでした。前職の先輩から、「そろそろ食ってきたか??」と笑って聞かれることがありますが、「全然!!」と即答します。大熊が特別なことより日常が楽しい町になるよう、自分もやれることをやっています。

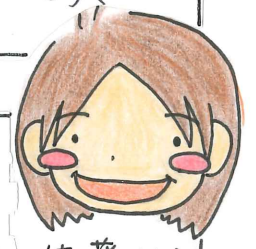


喜浦

10年前はちょうど中学3年の卒業式で、大熊中学校の黒板には今でも「卒業おめでとう」の文字が書かれたままなのはないでしょうか。当時の同級生に突然簡単に会うことができなくなってしまったのが悲しかったですね。それから飼っていた愛猫を避難先に連れていけなかったのも心残りでした。こういった辛い記憶もありますが、少しでも町民のみなさんが楽しいと思えるように、まずは私自身がポジティブに頑張りたいです。人と交流するのが好きなので、いつか大熊で大きなイベントができた方がいいな〜。



南場



佐藤(由)

2011年の4月に町職員になることが決まっていた。入庁まで1か月を切っていたなかでの震災。家族と一時的に県外へ避難することが決まり、その旨を町へ報告したとき「4月から来ることは可能か」と聞かれ、すぐさま「はい!」と答えたのを覚えています。あのとき、採用を辞退するという考えはなかったですね。あれから10年…。町内に戻ってきて改めて故郷の大切さやあたりまえの日常のありがたさを感じています。大熊町が好きだー!!